

<教育目標>

あたたかい心 ゆたかな知性 たくましい身体

平成 30 年 6 月 28 日発行

No. 5 校長 矢口 仁



高き希望に（第五中学校だより）

子どもとのかかわり — 結愛ちゃんの残した言葉 — 校長 矢口 仁

あのね
親は子どものことを見ているつもりだけど
子どもはその親を見ているんだな
親よりもきれいなよごれない眼でね 相田みつを



6月は「ふれあい月間」でした。人とのふれあいを大切にし、相手の気持ち・立場を考えながら話をしたり、行動したりできたでしょうか？振り返ってみてください。

ママ もうパパとママにいわれなくてもしっかりと
じぶんからきょうよりか もっともっとあしたはできるようにするから
もうおねがい ゆるしてゆるしてください おねがいます。
ほんとうにもうおなじことしません ゆるして

親からの虐待によって亡くなった5歳の結愛ちゃんが残した言葉を読んで、涙が止まりませんでした。心の底からの悲痛な叫びです。暴力を受け、ひらがなの勉強をさせられ、風呂を洗うなど十項目以上の決まり事があったということでした。覚えてたのひらがなで書いた文章が、このような内容とは……あまりにも悲しすぎます。

私には一歳の孫がいます。本当に可愛く、成長が楽しみです。小さな子どもを、ここまで虐げるなんて……なぜ？どうして？という疑問が心の中で渦巻いています。

結愛ちゃんの言葉を何度も読みました。どんな状況にあっても、子どもにとって親が心のよりどころであり、子どもは親のことが好きなのです。好きな親に認められたい、ほめられたいという気持ちをもっています。また、できないことができるようになりたい、今日できなくても明日、明日できなくても明後日……と少しずつ成長していきたいという気持ちをもっているのです。

だとしたら、大人はどうあるべきでしょうか？子どもたちの純粋な気持ちを大切に育てること、子どものよいところを認め、ほめること、そして、子供の自己肯定感を育むことが大切になります。できないことに「だめ出し」することは簡単です。それよりも、できるところを少しでも伸ばせるようにすることを心がけたいと思います。

たとえテストで50点でも、「50点取れたね。あと50点も伸びる可能性があるね。」というぐらいの気持ちで、励ましができてもよいのではないのでしょうか。

大人の心にゆとりがあると、子どもは安心して学べ、成長できるように思います。

「大人だって、はじめはみんな子どもだったのだから……」 『星の王子様』より